

参加報告

第 17 回 サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム

<http://www.riis.or.jp/symposium/vol.17/index.html>

ISACA 名古屋支部会員 朝日奈弘典

第 17 回 サイバー犯罪に関する白浜シンポジウムは、平成 25 年 5 月 23 日（木）～25 日（土）の 3 日間にわたり開催されました。






今年のテーマは、「追跡困難な新しいネット犯罪にどう立ち向かうか」です。




インターネットは市民生活をはじめとする、社会全体を支える社会基盤として構成され、さらに個人レベルのミクロな情報交換や個人と組織を結ぶ強力な社会インフラとしても定着しています。このような環境のもとで、個人が掲載した虚偽の情報によって大勢の市民生活が脅かされたり、一部の個人や組織による政府機関や民間企業等へのサイバー攻撃によって、国の安全保障にまで影響が及びかねない状態となっています。

犯罪遠隔操作ウイルスなどを使った標的型メール攻撃や、ニセの証拠を残すなど、従来の IP アドレスをベースとした捜査方法では追跡困難な新しいタイプの犯罪に対して、どう取り組めばいいか、の趣旨で開催されています。

期間中、昼の部では、メイン会場の和歌山県立情報交流センター「Big-U」において、各分野の専門家の方のご講演があり、また夜の部では会場をホテルシーモアに移し、ナイトセッション、ミッドナイトセッション、BOF、セキュリティ夜話が行われました。ご講演は下記のような方のご講演がありました。

<ご講演された方々、ご講演テーマ>

1 日目	西本 逸郎氏  (株式会社ラック) 「サイバーセキュリティ関連事象のおさらい」
	岡村 久道氏  (弁護士法人 英知法律事務所) 「個人番号の成立によって、情報管理はどう変化するか」
2 日目	森井 昌克氏  (神戸大学大学院 工学研究科 教授) 「セキュリティ分野における安全神話とその崩壊～永遠のビギナー対策から標準化まで、穴だらけのセキュリティ?～」
	鈴木 智晴氏  (総務省情報流通行政局情報セキュリティ対策室) 「総務省における情報セキュリティ政策の最新動向」
	林 憲明氏  (トレンドマイクロ株式会社)

	「フィッシング、認証情報詐取の実態とその対抗手段」 高木 浩光氏  (産業技術総合研究所 セキュアシステム研究部門 主任研究員) 「サイバー犯罪捜査に対する IT 技術者からの要望」
3 日目	辻 伸弘氏  (NTT データ先端技術 (株)セキュリティ事業部) 「知らないでも済まされる!? 今そこにはない危機!?ある危機!? ～誰のためのセキュリティ対策?～」
	鵜飼 裕司氏  (フォティーンフォティ技術研究所) 「MITB in Android」

夜の部では、「法律的なテーマ」、「技術的なテーマ」に分かれてディスカッションが行われました。ちょうど、開催期間中の 24 日には、国民一人ひとりに番号を割り振り、社会保障や税に関する情報を一元管理する制度である、通称「マイナンバー」制度の関連法（「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律案」）が、24日の参院本会議で可決、成立したタイミングと重なり、夜の部では、制度の導入が情報セキュリティにもたらす影響や、情報システムでどのように実現していくことになるのかなどについて議論される場面も見受けられました。

シンポジウム実行委員会から毎日発行される「白浜シンポジウム新聞」も、各日の予定、またその日の講演の内容など、この期間に計 8 号の発行があり、タイムリーな情報提供に一役買っていたと思います。取材編集は近畿大学生物理工学部の方がご担当されているとのことですが、ご担当の方のご尽力に感謝いたします。

また、企業展示においても、昨今その猛威を振るっている標的型攻撃への対策機器、ソリューションの展示など、盛況でした。コーヒープレイクなどの休憩時間を利用して、各企業の展示をツアー形式で巡り、展示内容についてご説明をいただく、「企業展示ツアー」もあり、他のシンポジウム、研修などでは見られないユニークな取り組みもありました。

個人的な所感ですが、2011 年の第 15 回白浜シンポジウムにも参加させていただいており（この時は、ISACA 名古屋支部の補助をご利用させていただいておりませんが）、その時と比較すると、参加者が劇的に増えていたとの印象を受けました。

また、開催初日には、簡単なアンケートとして、初めて参加される方に挙手をいただくような場面があり、会場を見渡しますと半数以上の方々が挙手しているように見受けられました。半数以上の方々が初めて参加されているといった光景を見ますと、年々、情報セキュリティに関する関心度が高まっていること、更には、白浜シンポジウムの知名度が高まっていることを感じました。

改めまして、今回 ISACA 名古屋支部の補助をいただき、白浜シンポジウムへの参加という貴重な機会をいただきましたことを御礼申し上げます。

最後になりますが、このシンポジウムは各分野の専門家の貴重なご講演、ナイトセッションなど、セキュリティに関する最新動向について議論することができ、非常に有益なものでした。

皆様も来年はぜひご参加ください。

以上